

Authors

Malcolm H. Field, 北島勉、石井博之、
Ian Frank (函館未来大学)

Acknowledgement

This project is supported by 地域総合研究所

INTRODUCTION

科学と健康への理解が、人々の長生きを可能にした。これは科学と健康研究における人類の偉大な成功のひとつである。日本では、平均寿命（出生時）から、2024年には85.15年（男性81年、女性87年）まで伸びている。65歳以上は高齢者という一般化はもはや通用しない。残念ながら、社会政治制度は科学的現実への適応が遅れ、その結果、政府、医療制度、そして個々人の経済的負担が増大している。

RESULTS

多くの組織/機関が退職者の再雇用を試みていることが分かりました。有意義な仕事への需要は依然として高く、70～74歳の人の50%以上が自分を高齢者とは考えていません。65～69歳の人の50%は、働き続けることを希望しているか、または働く必要があります。人々が自分の健康、スキル、認知を検証するためのギャップが残っていますが、これは機関、企業、個人にとって有益です。高齢者のデジタルスキルは向上していますが、DX経済へのさらなる統合を促すような有意義な方法でシステムに統合する必要があります。これは経済にとって機会損失になる可能性があります。DX経済における高齢者の知識と経験の活用と、若い労働者の間にはギャップが残っています。とはいえ、提案されているFit2Work: Japanはまだ検討中であり、フィードバックは保留中です。

LIMITATIONS

「ブロックチェーン」または同様の DX システムの必要性をさらに明確に理解する必要があります。Fit2Work: Japan システムは、自治体よりも国の機関や組織に有益であると提案されました。DX 経済では、デジタルとアナログの機会と検証システムのバランスを取る必要があります。

RESOURCES

文書とメディアはリクエストに応じて提供できます。

OBJECTIVE

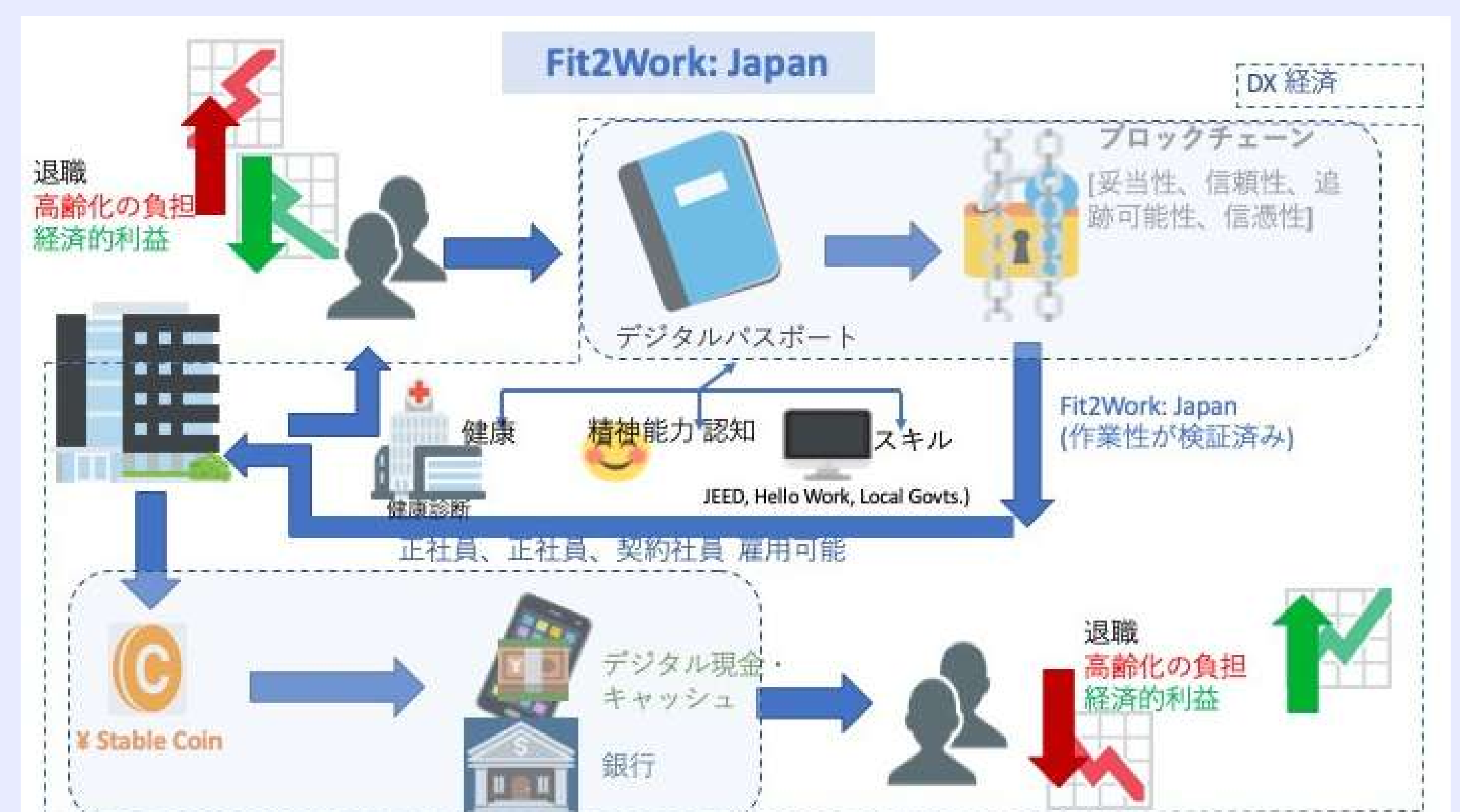
退職者が有意義な仕事を続けるためのスキル、健康、認知能力を備えていることを検証できるシステムを提案します。

METHODOLOGY

Fit2Work: Japan の提案を作成するにあたり、以下の点を考慮しました。

- 日本の高齢化の状況
- 有意義な雇用で働き続ける機会
- 高齢者が健康、スキル、認知能力を検証する機会
- デジタル経済 (DX)
- 新たなデジタル セキュリティ
- 既存の文書システムの制約
(マイナンバー、健康カード、外国人身分証明書、など)

Figure 1: Fit2Work: Japan 概要



FUTURE WORK

このプロジェクトはパイロットスタディでした。フィードバックの中には、このようなシステムは必要だが、デジタルシステムのさらなる開発と説明が必要だという意見もありました。また、議論は国家レベルで行われるべきだという意見もありました。日本のステーブルコインの導入には、銀行、政府機関、退職者の間でのさらなる試行が必要です。

RESOURCE PAGE

FIT2WORK: JAPAN PAMPHLET PDF



FIT2WORK: JAPAN SOCIOUS DEMO PPT



FIT2WORK: JAPAN INTRO VIDEO MP4

